

## 観察記録ノート

### 哺乳類

#### 長野県大鹿村における ヤマネの観察記録

四方 圭一郎

澤島 (2000) は、伊那谷でのヤマネ *Glirulus japonicus* (Schinz, 1845) の記録として、2ヶ所での観察記録を報告している。

筆者は、大鹿村で越冬中の本種を観察する機会があったので、分布及び越冬環境の記録として報告する。



図1 ヤマネの越冬環境 (←部分)



図2 朽ち木内で越冬するヤマネ

1ex. 大鹿村安康 (標高990m), 10. XI. 1999, 宇野彰氏発見。

小渋川水系青木川上流の川沿いでヤナギ類などの広葉樹の生えた溪畔林内の、直径約10cm、高さ1mほどの種名不明の広葉樹の立ち枯れの内部で発見した (図1, 図2)。この朽ち木を昆虫採集のため崩したところ上部から10cmほどのところの朽ち木の中で丸くなっていた本種が姿を現した。発見時は呼吸数も少なく越冬状態であると思われた。朽ち木は手で崩せるほどの柔らかさであった。越冬していた部分にはツリバナの実が数個みられたが、本個体が持ち込んだものかどうかは不明である。

調査に同行して下さった宇野彰氏、中峰空氏にお礼申しあげる。

#### 引用文献

澤島拓夫, 2000, 下伊那郡上村および伊那市西箕輪でヤマネを日撃。伊那谷自然史論集, 1, 31-34.

(しかた けいいちろう/飯田市美術博物館)

### 昆虫類

#### 長野県内のムカシトンボ 成虫の採集記録

四方 圭一郎

ムカシトンボ *Epiophlebia superstes* (Selys, 1889) は長野県内に広く分布しているが、成虫の採集記録は意外に少ない (信州昆虫学会編, 1977)。

飯田市美術博物館には、県内2ヶ所で採集されたムカシトンボの成虫の標本があるので、分布資料として報告しておく。

ムカシトンボを採集し、飯田市美術博物館へ御寄贈下さった、北沢正和、永幡嘉之の両氏にお礼申しあげる。

1♀, 下伊那郡浪合村蛇峠山 (標高1640m), 16. IV. 1996, 北沢正和氏採集・飯田市美術博物館保管。

蛇峠山の山頂付近の、ササが生えた明るい草原状の場所得られた個体。

1 ♀, 飯田市温井 (標高700m) 3. IV. 1997, 永幡嘉之氏採集・飯田市美術博物館保管.

既存記録のある場所である (信州昆虫学会編, 1977). ミズナラ二次林の中に通っている小径に沿って飛翔していた個体.

#### 引用文献

信州昆虫学会, 1977, ムカシトンボ. 信州昆虫学会編  
「長野県のトンボ」, 65-67, 信濃教育会出版部, 長野.  
(しかた けいいちろう/飯田市美術博物館)

---

## 飯田市における ラミーカミキリの追加記録

四方 圭一郎

長野県伊那谷におけるラミーカミキリ *Paraglenea fortunei* (Saunders, 1853) の分布は, 飯田市が記録の北限であり, 飯田市内においては現在まで1例のみの採集記録があることを報告した (四方・井原, 2000). その後, 飯田市内の2ヶ所で新たに生息を確認したので, 分布記録として報告する.

1 ♂, 飯田市山本西平 (標高660m), 13. VIII. 1999, 筆者採集・飯田市美術博物館保管.

水田の畦に生えたカラムシ群落で採集した. 本個体の他にもいくつかの個体を目撃し, カラムシには後食痕が見られた.

1 ♀, 飯田市水の手 (標高450m), 3. VII. 2000, 筆者採集・飯田市美術博物館保管.

段丘斜面の荒れ地に生えたカラムシ群落で採集した. この他に1個体を目撃し, カラムシには後食痕が見られた. この場所は1998年に分布調査を行ったが, そのときには生息が確認できなかった場所である.

飯田市において複数地点で生息が確認できたことから, ラミーカミキリは伊那谷において徐々に分布を拡大しているものと考えられる. 今後の分布動態に注目したい.

#### 引用文献

四方圭一郎・井原道夫, 2000, 長野県伊那谷におけるラミーカミキリの分布状況. 伊那谷自然史論集, 1, 35-36.  
(しかた けいいちろう/飯田市美術博物館)